

過去から学び今を知り未来を創る

～戦争の歴史を後世に伝えるために私たちにできること～

戦後77年がたった今、戦争という出来事が歴史へと変わりつつあります。戦争体験者がいなくなるにつれて戦争の悲惨な出来事が希薄化してしまう状況にあり、今後後世に戦争体験を引き継ぎ、平和の尊さを伝えていくことが重要となっています。今回の研修を通して得た学びから私たちが平和の大切さを伝え、平和な未来を創るためにできることについて「過去」「現在」「未来」の視点で考えました。

B班 梶東眞子 弓場理史 中村結衣 久枝綾音

過去（過去を学ぶ）

● 実際に見て感じて戦争について学んでいく

小学生へのインタビュー

Q. 原爆資料館で一番印象に残ったものは？

A. 11:02 で止まっている時計や火傷を負った写真

→子供たちは文章からではなく実際のものや写真などの資料から戦争の悲惨さを感じ取っていた。実際に自分の目で見て、感じて戦争について学ぶことができる機会を持つことが重要であると考えます。



外国人へのインタビュー

Q. どうして原爆資料館に来たのか？

A. 重要な歴史だから

Q. 実際に資料館を見学しどのように感じたのか？

A. 当時の状況を知りとてもショックだった。2度と繰り返してはいけない

→日本の悲惨な歴史を重要な歴史だと捉え、資料を通して当時の状況を知ることによって戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えていた。



現在（今を知る）

● 現在の日本、世界は平和なのか？

- ・ウクライナ問題や北朝鮮のミサイル問題をはじめ世界中で様々なことが起きている
- ・身近なことではいじめ問題など（10代の死因の多くは自殺。その原因の多くはいじめである）

→ 平和な世の中であるとはいえない

未来（平和な未来を創るために私たちにできること）

● 戦争という歴史を知り、悲惨さだけでなく希望も伝えていく

私たちは被爆者の“当事者じゃなくても歴史は伝えていくことができる”という言葉がとても印象に残り、私たちがその役割を担っていることを強く実感しました。戦争を経験していない私たちは“戦争を知る”ことしかできません。だからこそ過去の出来事や今起きていることをしっかりと学び、それを通して自分がどう感じるのか、平和な未来を創るためになにが必要なのかを考え、自分の意見を持って伝えていく必要があると考えます。

● 平和という大きな括りで捉えるのではなく身近なことから始めてみる

身近なところにも沢山の問題が存在しています。永井隆先生が生前おっしゃっていた『如己愛人(己の如く隣人を愛せよ)』という言葉で現代を生きる私たちが体現し、自分だけでなく周りの人も大切にするなど身近なところからはじめて平和な未来を創っていきましょう。



まとめ 以上の検討からこれから私たちが平和について後世へと伝える方法として「過去」、「現

在」、「未来」の視点から追って伝えていくことが大切であると考えます。まず過去の悲惨さを知り、それによって平和の必要性を感じます。そして現在は平和なのかを見つめ直し、その上で平和な未来としてどのようなものにしていきたいのか、そのためにはどうすればよいのかについて希望を持って考えます。そしてこれらを伝える側も教わる側も一緒に考え、平和な未来を創っていくことが大切であると考えます。